

令和4年9月までの漁済連に対する貸付状況と 今後の貸付けの見通しについて

1. 漁済連に対する令和3年度の貸付けについて

(1) 令和2年度以降、長引く不漁に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、共済金支払いが著しく多額に上り、国の特別会計による保険金が大きく不足したことから、信用基金が保険金相当分について漁済連に貸付けを行っている。

令和3年度に入っても、信用基金から漁済連への貸付が継続し、信用基金から漁済連への貸付残高が信用基金業務方法書上の貸付限度額を、また、漁済連への貸付の原資調達のための民間金融機関からの借入額が中期計画に定められた信用基金の借入限度額を、ともに越えてしまうことが見込まれた。

(2) このため、令和3年9月の運営委員会でご審議等をいただき、令和3年度及び令和4年度に限り、①信用基金業務方法書の一部改正（全国漁業共済組合連合会（以下「漁済連」という。）への貸付限度額の引き上げ（上限270億円））及び②中期計画に定めた借入限度額を超過する借入れを行う（上限227億円）ことについての大臣認可申請を行った（令和3年11月30日主務大臣認可）。

(3) この結果、令和4年3月に貸付残高は188億円、借入残高は140億円となったものの、限度額を超過することなく、円滑に資金の貸付けを行うことができた。

図1 令和3年度の漁済連への貸付残高の推移
(単位：億円)

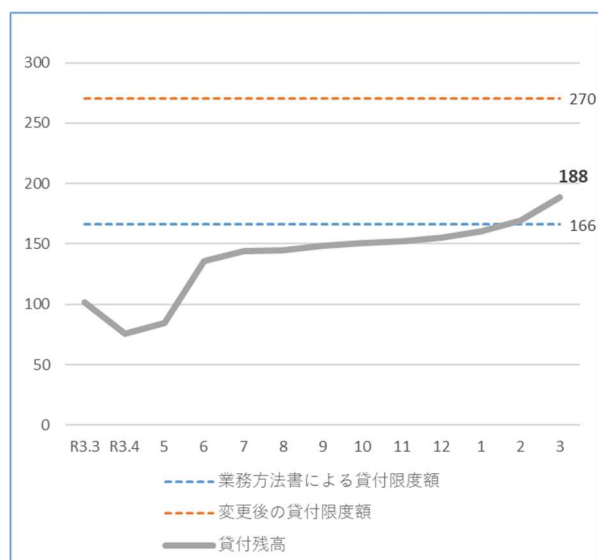
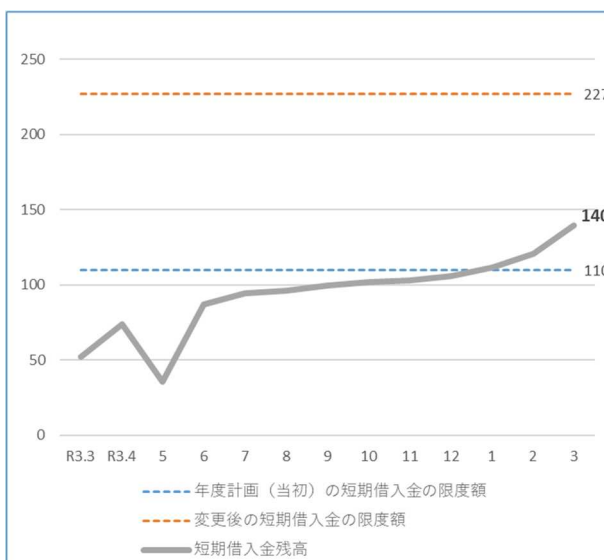


図2 令和3年度の信用基金の借入残高の推移
(単位：億円)



2. 令和4年度の実績（9月末現在）と今後の貸付けの見通し等について

(1) 令和4年4月から9月にかけて、信用基金から漁済連に対して延べ199億円の貸付けを行い、一方、国から支払われた保険金を財源として、漁済連から信用基金に対して、9月末までに延べ171億円の貸付金が返済されることにより、この結果、令和4年9月末現在の信用基金から漁済連への貸付残高は76億円、信用基金の民間金融機関からの借入残高は28億円となる見込みである。

図3 令和4年度の漁済連への貸付残高の推移
(9月末現在・見込) (単位：億円)

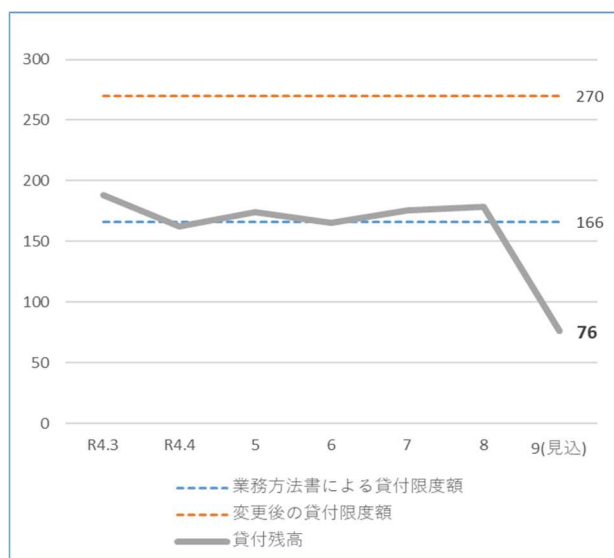
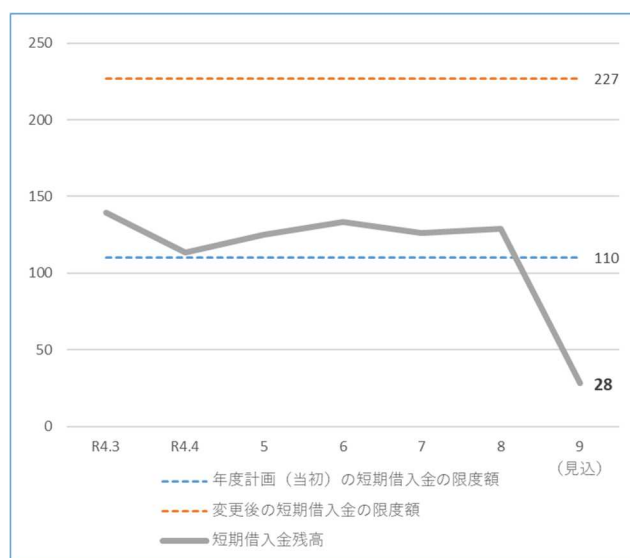


図4 令和4年度の信用基金の借入残高の推移
(9月末現在・見込) (単位：億円)



(2) 今年度は、

①前年度を大きく上回って国の保険金支払のための予算措置がされていること、

②現時点で共済金の支払いが前年を下回って推移していること

から、貸付額及び借入額が、変更後の貸付限度額及び大臣認可後の借入限度額を超えることは想定しがたいものの、第4四半期に多額の共済金支払が発生する傾向があることから、引き続き共済金の支払状況等については注視していきたい。

表 令和3年度及び4年度の保険金予算額
(単位：億円)

	令和3年度	令和4年度
保険金予算額	47	174

図5 共済金支払額(累計)の推移
(単位：億円)

